

2017年11月26日(日) 近畿旧友会ハイキングクラブ「燦歩会」例会 (第464回)

さんぽかい

「京都一周トレイル (9年計画の第1回)」

京阪電車伏見桃山駅前、小さな標柱が立っています。
京都一周トレイルの出発点を示すものです。

「京都一周トレイル」は、京都盆地を取り囲む山々を巡る
総延長およそ80kmのハイキングコースです。

燦歩会は、9年かけてその全行程を歩こうと考え、
手始めに、東山コースの内「伏見・深草ルート」9.5kmを
歩きました。伏見桃山駅から伏見稲荷大社までです。



このルートでは、全部で35本の標柱が、道筋を教えて
くれます。その1本目、伏見桃山駅前の「F1」から
スタートして、東へ向かいます。

天候は晴れのち曇り、気温は8.6度。風は「静穏」。
参加メンバーは19名です。(男性14名、女性5名)



ゆるい上り坂を進みます。この道は「大手筋」。
豊臣秀吉の築いた伏見城の大手門に通じる道でした。
(逆に西に下って行くと、市内随一の賑やかな大手筋の商店街です)

5分ほどで御香宮 (ごこうのみや) 神社に入りました。
平安時代、境内から香りのよい水が湧き出し、それを
飲むと病いが癒えた事から、清和天皇より「御香宮」
の名が与えられたのだそうです。
表門は伏見城大手門を移築した重厚なものです。
国の重要文化財に指定されています。



この日境内は、七五三、お宮参りの人々で賑わっていました。
名水は、今も参拝者が飲むことができます。
甘みのある、美味しい水でした。

ゆるい坂をさらに上り、国道24号線 (奈良街道)、次いでJR奈良線を渡ります。
僅か500mの間に、鉄道3本 (京阪、近鉄、JR) そして国道1本が走る、交通の要衝です。
加えて伏見は、高瀬川や宇治川・淀川を通じて、京都～大阪への水運の要でもあったのです。

上り坂はいつしか玉砂利を敷いた広々とした道になり、更に登った奥まった所が、明治天皇陵です。墳丘は古式にならった上円下方墳で、下段の一边は約60m、上段の円い丘は6mほどの高さで、表面にはさざれ石が葺かれているのだそうです。

この辺りが、かつての伏見城の中心部で、廃城の後は、桃の木が多く植えられたため、桃山と呼ばれることになったのです。

今この丘陵には、2棟の天守がそびえています。1964（昭和39）年に開園した観光施設の模擬天守です。老朽化のため2003年に閉園となり、現在は運動公園のシンボルとして残されています。



桃山から、トレイルは北東の大岩山に向かいます。道の両側に竹林が続きます。いかにもおいしいタケノコの取れそうなよく手入れされた竹林と、生い茂るままになった荒れ果てた竹林、その落差には切ないものがあります。

大岩山頂（182m）にほど近い大岩山展望所で昼食休憩です。眼下には京都市街、遠くは大阪方向も見渡すことが出来ます。円内が先程の桃山城です。



大岩山を下り、伏見稲荷に向かいます。なだらかな丘陵からは思いも寄らない険しい下り坂。途中で不思議なオブジェに出会いました。大岩神社の結界の鳥居です。デザインしたのは、文化勲章も受章した京都の日本画家、堂本印象（どうもといんしょう）です。



まことに斬新なデザインの鳥居です。大岩神社は、古くから「難病の神」として知られていたようで、堂本は母親がこの大岩神社に参拝していた事から、鳥居を寄進したものです。

伝統的な日本画から、抽象画にも幅を広げた、堂本印象らしいデザインです。



堂本が生前自ら開館した堂本印象美術館の外壁も、この鳥居のデザインに通ずるエネルギーなものです。(美術館は後に京都府に寄贈され、現在リニューアル中で、来年春に再オープンするという事です)

大岩山を下ったトレイルは、名神高速道路の下をくぐり、北へ伏見稲荷に向かいます。ここで3名の会員が帰途につきました。

稲荷山の中には、修業の場が点在します。その一つ、白菊の滝へ。一筋の水の落ちる周囲に不思議な光景が広がっていました。建ち並ぶ石の鳥居、朱の鳥居、結界の朱の柵。流れ落ちる水の許に祀られる苔むした不動明王。神と仏一体の中で、行者は水垢離を取り、一心に祈ったのでしょう。

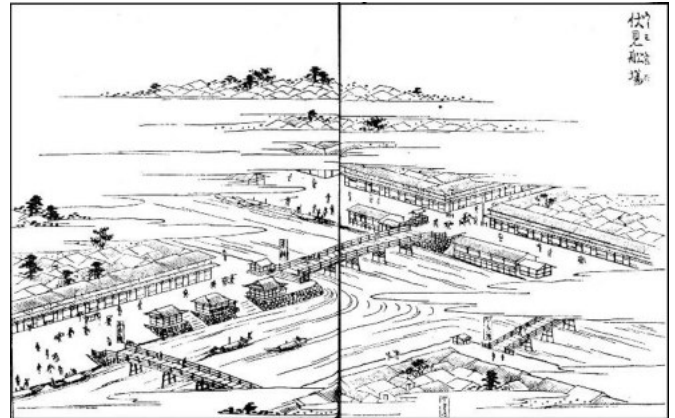


オーラ漂う行場から下ると、そこは朱の鳥居のトンネルに多くの参拝者がひしめく伏見稲荷。大混雑の中で、このルート of 終点「F 3 5」の標柱は見つける事が出来ませんでした。予定よりやや遅れて、15時半に無事解散しました。

相変わらずの蛇足で失礼します。

伏見の戦い

豊臣秀吉から徳川家康へ引き継がれた伏見城は、1622年に廃城となり、伏見の町は政治・軍事都市から、港湾・商業都市に変貌します。都名所図会が、町の盛んな様を描いています。1840年頃の町の戸数は1万3千軒、人口は4万人を数えています。



そんな栄えた町伏見が、火に包まれたのは、幕末の動乱の中、1868（慶応4・明治元）年1月3日夕刻の事です。鳥羽伏見の戦いです。

京都へ上ろうとする幕府軍と、それを止めようとする新政府軍。伏見では、新選組を始め、幕府歩兵、会津藩兵などが、伏見奉行所を本営として立てこもります。御香宮から100m程南の所です。一方、新政府軍は薩摩・長州・土佐3藩の兵が、御香宮の線から、奉行所を取り囲みます。高まる緊張の中で、鳥羽から戦いは始まり、伏見では激烈な市街戦になるのです。

幕府軍側は、未だに刀槍一筋の武士が多く、一方新政府軍は火力に優れ、薩摩藩などは御香宮から奉行所に向けて大砲を打ち込みます。

その中で伏見の町の南半分が焼け、幕府軍は、淀に向け敗走するのです。焼け残った町家の1軒が、今も料亭を営んでいます。その店の格子戸には、戦いの際の弾丸の跡が、残っています。



ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。（事前に予約が必要な場合もあります）

今後の予定

1 2月 納会

1月 道明寺天満宮で初詣（大阪）

2月 どんづる峰を訪ねる（大阪・奈良）

3月 御坊と道成寺（青春18切符を利用 和歌山）

4月以降の予定は、来年初めに決定します。

参加ご希望の方は、山村恵一さんにご連絡下さい。（電話 0743 - 20 - 4159）
ご一緒に気軽に楽しく歩きましょう。

生島（おじま）幸弥 記